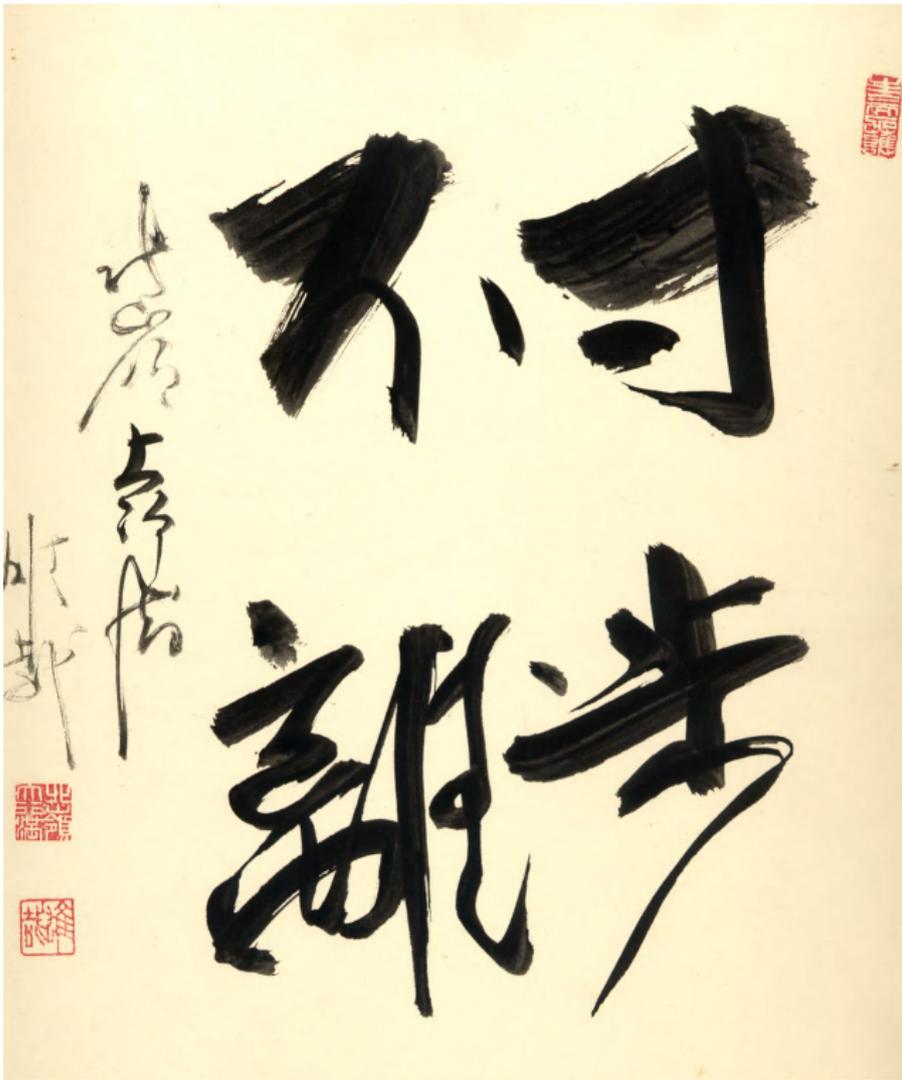


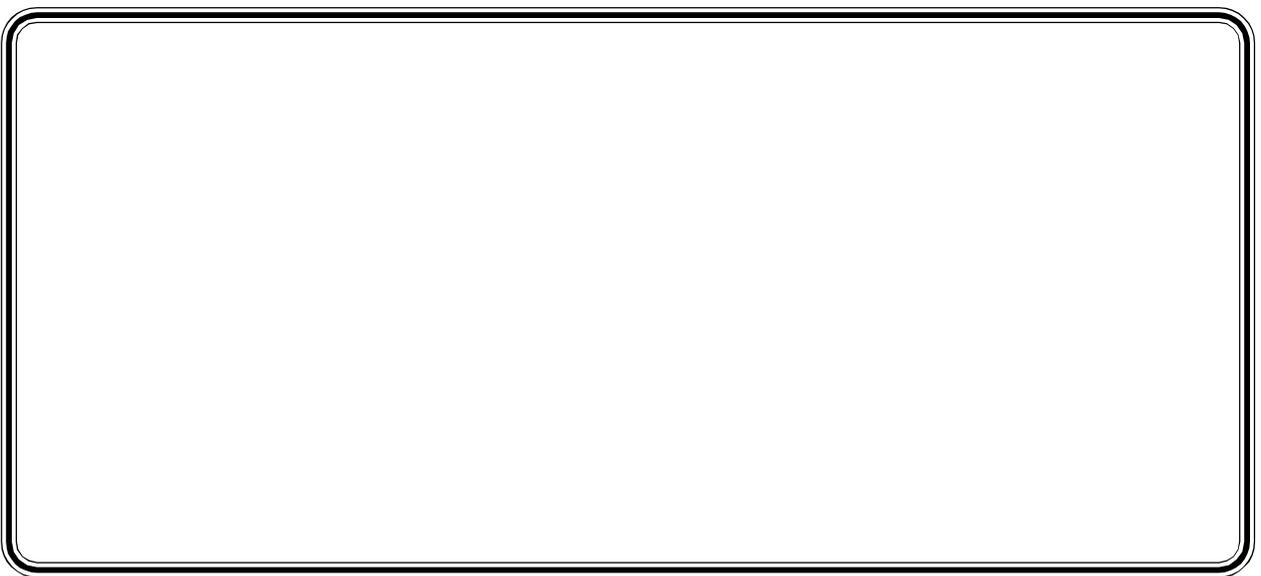
圓福寺報

圓福寺報 第四十九号
 平成十九年七月十五日発行
 発行者 臨濟宗妙心寺派 圓福寺
 千葉市稲毛区穴川町三七五 TEL (二五二) 九一八一
<http://www.bnet.co.jp/enpukuji/>
 E-mail: enpukuji@come.bnet.co.jp



「一寸歩離れず」 北嶺大行満 雄哉

比叡山千日回峰行を二回満行された大阿闍梨、酒井雄哉師の書



寺説

千葉市にも臨済宗がある。

千葉市にも臨済宗があるということ
は、檀信徒の方なら常識も常識であ
る。ところが、最近「千葉市には臨済
宗はありません。」ということばを耳
にする。

大切な人を亡くされて、葬儀を終え
られた方が、インターネットやタウン
ページをご覧になって電話をかけてこ
られたり、お寺の看板を見てたずねて
来られます。そして、すでにお葬式は
終わったのですが、やはり臨済宗の和
尚さんにお経を詠んでいただきたいの
ですとおっしゃいます。臨済宗とい
う宗派の名前をご存知の方が、なぜお葬
式のときに臨済宗でお葬式ができな
かったのか不思議に思います。

大切な方を亡くされたときに、葬儀
屋さんに「『うちの宗派は臨済宗で
す。』と言ったのに、葬儀屋さんが千
葉には臨済宗はありませんと言ったの

です。」とおっしゃいます。そして、
他宗のお坊さんや、葬儀屋さんお抱え
のお坊さん（僧侶の資格があるかは不
明）を連れてきます。大体そういうお
坊さんまたは偽坊さんは、葬儀の際に
四十九日の予定まで打ち合わせていく
傾向があるようです。

なぜ臨済宗があるのに平気でない
と言うのか、ミートホープまがいの葬儀
屋さんがいるのか。ある良心的な葬儀
屋さんに聞くと、裏事情が見えてく
る。

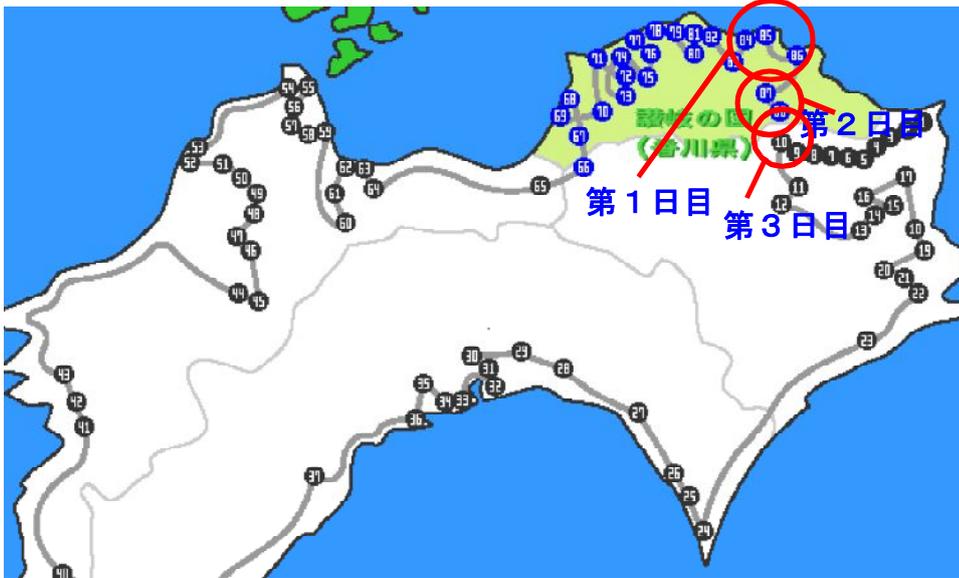
葬儀屋さんからお葬式依頼を受けた
お坊さんや偽坊さんは、お布施のうち
三割から五割を紹介料として葬儀屋さ
んに支払うのだそう。これは、葬儀
屋さんの方から請求されたり、お坊さ
んや偽坊さんが葬儀屋さんに営業に歩
いたりしたときに契約内容として取り
決められるという。葬儀屋さんも、祭

壇無料・式場使用料無料などと謳って
いるところもあり、儲けが少ないの
か、あるいは取れるところからは取っ
てやろうと思っているのか、お布施に
まで食指を伸ばしてきたのである。そ
れも、みなさんの気持ちがおもったお
布施である。いずれ仏罰があたるに違
いない。

しかし、憤慨することばかりでもな
い。お葬式後にわざわざたずねてきて
くださる方は、法要をさせていたたく
と心から感謝のことばをおっしゃる。
それだけ臨済宗に対するお気持ちを強
くお持ちだからである。そうでない人
は、他宗だろうが偽であろうが、なん
でもいいからお葬式の形を済ませれば
いいというのだろう。決してお寺に訪
ねてくることはない人たちである。そ
う考えると、臨済宗がないと平気で言
う葬儀屋さんは、臨済宗の信者さん
をふるいにかけてくれているのかわし
れない。

彼岸法要・お施餓鬼などたくさんお
参り下さる圓福寺の檀信徒の方々が、
熱心であるのもうなづけるのである。

寺説・・・新聞社に社説があるように、お寺にも「寺説」がある。



第十一回 結願 四国あるき遍路の旅

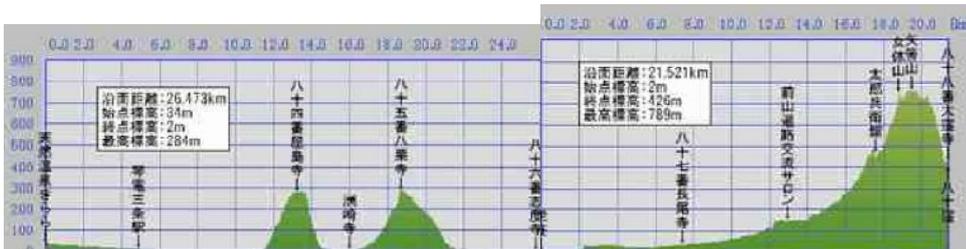
平成十九年二月十七日(土)～十九日(月)
八十四番屋島寺(高松市)から
八十八番大窪寺(さぬき市)を経て
九番法輪寺(徳島県)まで
総歩行距離 約五十六km
参加者 十八名

平成十三年三月からはじめた「四国あるき遍路の旅」も、足掛け七年、十二回を数え、ようやく八十八番結願を迎えました。今秋の高野山への御礼まいりと妙心寺への参拝で、四国あるき遍路満願となる予定です。

最初は、四国遍路ブームに合わせて、遍路体験ぐらいのもりで一回だけの企画でしたが、参加者からの「次はいつ行くの。」という声に後押しされて、あるき遍路がはじまりました。十人足らずでスタートした遍路は、桃太郎のおとぎ話のように、回を重ねるごとに参加者を増やして、二十名前後の、あるき遍路としては大所帯になりました。お寺が主催のあるき遍路では、全国的にも類を見ないに違いありません。

第一回から全部参加できたのは、住職以外ではたった一名でした。しかし、途中からの参加者から、「もう一度、一番から回って欲しい。」との声で、来春から第二クールがスタートします。これで、途中から参加の方も、すべて歩くことができると思います。また、これから始めてみたいという方も、第二クールから参加してみてもどうでしょうか。

先のことはあらためてご案内するとして、第十二回の四国あるき遍路のご紹介をさせていただきます。



第12回四国あるき遍路の予定表		コース予定					平成19年2月17日～19日		
期日	曜日						食事・宿泊		
1	2月17日	土	7:55 羽田空港集合	7:55 羽田空港発	JAL631便	9:15 高松空港着	9:35 高松空港発	空港リムジン	【歩く距離】約14.7km
			10:15 中央公園下車	10:20 法泉寺着	結願記念法話拝聴(横田宗忠師)	「歩歩是道場」(30分ぐらい)	近くで昼食。	屋食はさぬきうどん「とみや」	
2	2月18日	日	11:52 瓦町駅発	12:03 湯元駅着	約2.4km	13:00 84番屋島寺	13:30 屋島寺発	宿泊:「栄荘旅館」	【歩く距離】約20km
			15:00 85番八栗寺	15:30 八栗寺発	約6.5km	17:00 86番志度寺	17:00 栄荘旅館泊	宿泊:「竹屋敷」 香川県さぬき市志度573 087-894-0029	
3	2月19日	月	8:00 志度寺発	10:00 87番長尾寺	10:30 長尾寺発	10:30 約13km(山道含む)	16:00 88番大窪寺	宿泊:「竹屋敷」 香川県さぬき市多和竹屋敷123-1 0879-56-2288	【歩く距離】約24km
			朝食後、旅館のバスが途中まで送ってくれる。	14:00 9番法輪寺	14:30 法輪寺発	約18.2km	12:30 10番切幡寺	13:00 切幡寺発	屋食は道中にて
			16:07 鴨島駅前着	16:40 鴨島駅前発	約30分	17:08 徳島駅着	17:35 徳島駅前発		
			17:59 空港リムジン	19:00 徳島空港着	JAL1442便	20:10 羽田空港着			

■ 氷雨のお出迎え

初日、高松空港から空港リムジンと琴平電鉄を乗り継いで、屋島寺の麓「湯元駅」で下車。電車に乗る頃から、雨が落ち始め、駅での待ち時間で雨支度を整え、湯元からは雨中の遍路となりました。雨も坂も次第にきつくなり、八十四番屋島寺に着くとほとんど土砂降りです。坂道があると、前後の距離が長くなり、最初に着いた人は後続をしばらく待たなければなりません。海外への団体旅行だと、遅れる人を白い目で見たりする人もいますが、あるき遍路にはそんな人はいません。二月の冷たい雨の中を、本堂前で待っていれば、体も冷えてくるのですが、後続の人が見えると、「もう少しだよ。」とか「がんばれ。」とか、自然と励ましのことがばが出るのです。全員そろったところで、本堂と大師堂それぞれ



れに般若心経を読経しました。壇ノ浦の古戦場で有名な屋島は、山頂からの眺めも素晴らしい観光地ですが、まだ寒い二月、しかも雨では観光客もほとんどおらず、私たちのお経が雨をついて境内に響き渡るようでした。お参りを済ませ、山上の茶屋に入り、昼ごはんにしました。空腹に食べたいどんよりも、石油ストーブの温かさがなによりのごちそうだった気がし





ました。
 屋島寺からは、壇ノ浦に向かって急坂のへんろ道を下ります。雨で滑りそうになるのを必死でこらえながら、麓までたどり着くと、ももやひざはがくがくです。目指す八十五番八栗寺の石が切り出された山が見え、次はあの山を登るのかと、少しだけ尻込みする気持ちになります。
 八栗寺の下に着くと、へんろ道に沿って山上までのケーブルカーがあります。尻込みする気持ちが勝った人はケーブルカーで、元気な人はへんろ道を歩いてと、それぞれに札所を目指しました。

ようやく登りついた八栗寺の参道には、石の鳥居が立っています。参道を進んで本堂前の両側には狛犬が鎮座しているというお寺らしくらぬ札所でした。
 雨は幾分小降りになったものの依然としてやむ気配はな



く、曇り空とあいまってすでに夕方方の気配さえします。
 こんなとき、一人歩きの遍路は心細くなりますが、たくさんの同行者に心を支えられながら、山を下ることにしました。
 琴平電鉄とJRとの間を通る国道十一号線に出ると、八十六番志度寺までは約2km。納経所が閉まる前にたどり着けるか不安でしたが、今日中に参りをする事ができ、次の日に余裕を持たせられます。

■ 銭湯のお接待

今日の宿は、「栄荘」という遍路宿。宿に着くと、お疲れでしょうから大きいお風呂がいいでしょうと、近くのお風呂を紹介してくれました。今は全国どこにでも日帰り入浴施設があるし、おそらくそんなところだろうと、





すからということばに従ってそれらしい建物を捜しますが、一向に見つかりません。街中の銭湯なのかもしれないと、みんなで煙突を捜しても見つかりません。突き当たりまで

体を洗って大きな湯船に浸る自分を想像しながら宿を出ました。宿のおかみさんに言われた通り歩くと、道が細くなるではありませんか、こんなところに広い駐車場を備えた日帰り入浴施設があるのだろうかと不安になります。一本目を道を左に行くと右側にありま



研 研 研

行って、右側を見ると、角の堀に、「観光湯」という小さな看板があり、堀の中をのぞくと、「男湯」「女湯」ののれんがゆれていました。私たちが勝手に想像していた日帰り入浴施設は、街中の超レトロな銭湯だったことに今気づかされました。のれんをくぐると、すべてが戦前のままの下駄箱と番台。番台で入浴料を払おうとすると、「栄荘」にお泊りの方はお代はいりませんとのこと、風呂代は遍路宿のお接待でした。中に入ると、これまた昔のままの脱衣場、洗い場がゆがんで見えるガラス戸、壁のホーローの看板、ところどころタイルがはげた湯船、どれもが学生時代に入った銭湯をはるかにしのぐレトロ感です。皆で洗い場を譲り合い、肌と肌を触れながらの入浴、それでも一日の疲れを取るには十分でした。世の中、秘湯ブーム、もしかしたらこの「観光



湯」も秘湯の仲間入りをするかもしれない。外に出たら、豆腐売りのラッパが聞こえたり、縁台にはステテコで涼むおじいさんで現われそうな気分させられて、表に出ると、すでに夕刻、急いで宿にもどりました。

■ 結願への最難所

二日目は、いよいよ八十八番大窪寺に向けてひたすらの歩きになります。八十七番長尾寺までは、平坦な道。「栄荘」でお接待にいただいた昼ごはんを食べた「前山おへんろ交流サロン」を過ぎると登りの連続となります。おそらくは、これが一番正當なあるき遍路道と思われれます。ようやく峠に着いたと思っ、上に目をやれば、これから越えていかなければならぬ女体山がそびえ立ち、峠の先を見る



研 研 研

れ、空中の楼閣にいる錯覚をおこすほどでした。

次は、いよいよ最後の下りです。ここから一気に大窪寺に転げ落ちるような道を下ります。途中の展望台で一休みすると、はるか下に大窪寺の境内がないほどの急な下り坂。途方にくれてもいられず、意を決して下り始めます。下れば登るは自明の理、次の登りは八十八ヶ所最後の登りとなりま



す。岩山を足だけでなく両手も使って、霧で見えない女体山を目指します。頂上の東屋で一休みすると、周りは霧に包ま



ろですが、それ以上に高い段差の坂を下りる不安の方が勝っていたのが正直なところでした。

境内に着くと、先行組が満面の笑みで迎えてくれました。全員そろって、本



見え、先行組が休んでいる姿も小さく見えませんでした。足掛け七年、八十八ヶ所最後の札所がすぐ下にあります。感極まるとこ



堂と大師堂で、般若心経を詠んで、ついに、四国八十八ヶ所結願の時を迎えることができました。宿の迎えのバスの車窓から、さっき登った女体山を見ることができ、さっきの辛さを思い出すとともに、一番から八十八番までのたくさんさんのシーンが走馬灯のように、次から次に浮かんできました。

■ いぎ、お礼参りに

三日目、八十八ヶ所を結願しての朝も、いつもの遍路と変わる



あることはありません。何かご利益があったとか、人格が変わったとか、そんなことは同行の仲間からは感じられません。また朝が来たから、旅支度を整え、新しい一日を歩き始めるだけのこと。八十八番から山越えをして徳島に戻り、十番から一番に向けてのお礼参り遍路を始めました。とはいっても、親切な宿の運転手さんが、徳島県境を越



えて最初の集落の小学校前まで連れてきてくれたのですが、お礼参りは、

八十八ヶ所を踏破した一行の凱旋ではありませんが、非力な私たちが、怪我や病



人、時には叱咤し激励してくれた同行の仲間、そして常に見守ってくれていたであろう各札所の仏さんたちとお大師さん。何より、足が痛いとか歩くのが遅いとか言いながらも歩くことができた体を授けてくれた両親、何回も四国に旅立たせてくれた家族や仕事仲間に対しての御礼を込めてのお参りです。最初に歩いたときは、自分のため、そしてお礼参りは私たちを支えてくれた人たちの



気などにくじけず歩かせていただいた、四国の国や



ためのお参りといえるでしょう。振り返ると、発心・修行・菩提・涅槃と続いてきた四国あるき遍路ですが、最初の徳島に戻り「報恩感謝」の道場となるのです。

よう謙虚なころにでいたいと願うのです。歩くことができそうだから、「歩歩是道場」というのでしよう。

大鷲山



そのお礼参りを通して、八十八ヶ所歩いたという自信を、自らの驕りや過信にしない

叶塚三



お寺の情報公開ページ その十八
穴川風土記

寺から半里（その4）

くわが町かど探索く

園生町 熊倉 浩



寺から半里は、前回で終わるが少し足を伸ばしてみることにしよう。

県道七十二号穴川天戸線と並行に走る京葉道を渡れば犢橋、さつきが丘団地である。団地内の広い緑地は史跡公園「犢橋貝塚」（国指

定史跡）である。縄文時代後く晩期（二〇〇〇〜三〇〇BC）の大型貝塚を伴う集落址である。東西二百m南北百五十mの馬蹄形で学術上極めて重要とされる。団地建物群の中にあってスポーツに憩いに格好の場となっている。

国指定史跡の大型貝塚が四箇所あるのはわが市だけである。「加曾利貝塚」「月ノ木貝塚」



犢橋貝塚

「荒屋敷貝塚」「犢橋貝塚」でその他県・市指定や無指定を合わせると数え切れない。因みに千葉は縄文貝塚の最多県である。

畑小学校前の本村橋から「東大総合運動場」はすぐである。昭和二十六年三月二千年前の泥炭層を発掘中独木舟（まるきぶね）と一緒に蓮の実が出土した。大賀博士によって開花したのが所謂「大賀蓮」であり各地に広まった。外国種との交配で「中日友誼蓮」や「舞妃蓮」などの新種もつくられ、みなと公園で毎年見られる。高台には「東大緑地植物実験所」、その北



側に「三山祭り」^{みやま}の古社で安産の神「子安神社」がある。祭神は「櫛名田比売命」^{くしなだひめのみこと}。社殿裏に古墳が見える。ここも古墳群であり「畑」の地名は古代渡来系の秦氏^{はたうじ}と関係があるという。

馬頭観音から「くろとの浜」へ
 区役所と京葉工高は戦中の千葉陸軍戦車学校の跡(前述)で、戦後は建設省(現国土交通省)地理調査所となった。現在の国土地理院(つくば市)である。その後建設省土木研究所が入った。自動車研究所(名称は定かでない)もあった。

工高の交番寄りゲートから放医研裏の崖まで小型飛行機なら楽に離着陸出来るような幅三十m長さ八十mの直線テストコースがあり、今もその一部を放医研裏に見ることが出来る。

「江戸道」の馬頭観音(前述)は人間様の都合で、二度三度と変えられた末現在地に安住している。昭和三十年代周囲は一面の畑で、地形の様相をうまく表現できないが、中華鍋の内側を見上げる様に緩やかに広がっていた。畑の尽きるところ鍋の縁から圓福寺の屋根がのぞいていた。そしてここは今よりずっと低地であった。京葉工高の桜は多分戦車学校開校当時のものであろうが、かなり老木にもかかわらず元気で毎年見事な花を楽しませてくれる。

小仲台と園生の頭の字から名づけられた「小園公園」^{こその}に降りよう。かつては、道路脇の駐車場が深く切れて

谷をなし、綺麗な水が湧く水源であった。この谷が「ひらめ川」である。やや降った所は池というより水溜りのぬかるみで綺麗とは言えないが、夏は蝉時雨の下で子供たちが泥んこになって蛙やザリガニ取りで夢中であった。春はアヤ



メが、秋は蒲がまの穂が揺れていた。公園整備でよくぞ残してくれた櫛の老大木は黙って時代を見つめ立っている。水溜りから下は秋に稲穂が垂れる谷津田であった。古地図（大五年）に「上谷津田」「溜池」の小字名が見える。左岸は森や林であった。両岸ともきつい傾斜のまま放医研下の崖に至り自然地形はすでに無いがそこは今も百m余を測る幅である。



小園公園

放医研の下で右（サテイ方）からの谷と合流した「ひらめ川」は広い水田を成し黒砂村から江戸湾に出る。総武鉄道（総武本線）と京成電気軌道（京成線）の開通で分断

された「ひらめ川」はその下を流れ、いままた新港横戸線工事で分断の憂き目に会っている。

この下を流れているのがひらめ川とは誰も知らない暗渠に沿って行く。黒砂台集会所前の坂を上りきると西千葉公園に出る。元JRの気動車基地で大きな動輪のモニュメントが目に入る。房総半島はSL全盛時代でもふんだん（？）に出る天然ガスで気動車が走っていた。車体の下にボンベを何本も抱え込み重そうだった。日本中が



気動車基地跡

木炭や薪で動いていたころ千葉は街も村もボンベを背負ったバスでクリーンであった。公園からJRの線路をく

ぐり京成線を渡り信号を右折、坂を下ると旧黒砂村の中心に入る。集落の歴史は古い。「平将門たいらのまきなの乱」で敗れた将門家臣の六人衆がこの地に逃れ住み着いたと伝えられ今に子孫がおられる。またそのうちの一人は「千学集」にも名が見える。

右の小高い森は「黒砂浅間神社」で大きな古い家々と相俟って村の鎮守様にふさわしい景観が嬉しくなる。祭神はこのはなさくやひめのみこと木花開耶毘売命。「稲毛浅間神社」より創建は古い。参道の階段両脇には出羽三山はじめ秩父や伊



青面金剛像

黒砂浅間神社



勢参りの碑が
びっしり並
ぶ。特に拝殿
前の青面金剛
像の庚申塔は
立派である。

寛仁四年上

総の国司（県

知事）

すがわらのたかすえ
菅原孝標は任期が終わって国府
（市原市）を発ち都に向かう。途
中「くろとの浜」の月があまりに綺
麗だったので歌など詠みそこで泊
まることにした・・・と孝標の娘
による「更級日記」のくだりは有名
で、「くろとの浜」は黒砂に比定
されている。そのとき彼女は
『まどろまじ今宵ならではいつか
見む くろとの浜の秋の夜の月』
と詠んでいる。

市内から外れている黒砂の集落
も、今次大戦の末期空襲を受け大

半が焼けてしまった。高台に登っ
て西に眼をやる。かつて白砂青松
だった遠浅の海は見えない。千葉
街道の先は大規模団地が続くばか
りであった。

圓福寺がある穴川を中心にその歴
史や地理について、四回にわたって
ご紹介させていただきました。執筆
してくださった熊倉浩さんには、足
で歩いての素晴らしい玉稿をお寄せ
いただき、ありがとうございます。

穴川花園幼稚園

「園だより」から

「食の思い出」

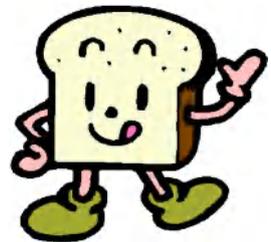
私事ですが、先日は母の葬儀に際しお悔やみをいただきありがとうございました。ありがとうございました。

母は夫を早くに亡くし、以来五十年に渡ってお寺を守っていました。ですから、休日に親子で過ごすとか、ゴールデンウィークなんて無縁でした。普段の日も、学校から帰ってきてすぐにするには、境内のどこかで草取りをしている母の居場所を捜すことでした。

そんな忙しい母でしたが、2、3度だけ、ドーナツ型のパンのよなものを焼いてくれたことがあります。母が作ったパンは、町で売っているジャムパンやあんぱんよりおいしかったものです。そ

の後も、あのパンを食べたいと思っ
たものの、忙しく
している母にねだ
ることはできませ
んでした。それで
ある日、自分で
作ってみようと思
いました。小学
2年のころだと思
います。作り方
は、母のそばで
作るのを見てい
ましたのでなんと
かなるだろうと
電気フライパン
を持ち出しまし
た。卵を割り、
砂糖をいれ、そ
してこれを入れ
るのを忘れると
膨れないと母が
言っていた重曹
も入れませんでした。
でも、母のよう
なパンはでき
ませんでした。肝
心の小麦粉を入
れていなかった
のです。そのと
き、母の偉大さ
とパンを作れな
かった、そして
食べられなかつ
た悔しさとひも
じさがこみ上げ
てきたことを思
い出します。

でも、これが私の食に対しての



原点であり、ものを作る原点のよ
うな気がします。

大学の先輩が、文部科学省の食
育調査官といういかめしい仕事を
しています。二十数年ぶりです。コ
ンタクトを取ることができ、メー
ルでやり取りをしています。そこ
で、「食物は最高の教材」と教え
てくれました。三度三度食べる食
べ物が、子育てをしていく上で最
高の教材だと・・・。

私は、母の作ったパンで、物事
にチャレンジすることを知りまし
たし、作ることの喜びや失敗の悔
しさなども学ぶことができたよう
な気がします。まさに母の作った
パンが教材になったのだと思いま
す。

今年も、秋になったら、幼稚園
の子どもたちにさつまいもご飯を
炊いてあげようと思っています。

(5月の園だよりから)

「手付かずのお弁当」



この園だよりを手にされるころには、子どもたちから遠足のお話をたくさんお聞きになっっていることと思いますし、遠足では、ご家庭では見ることできないお子さんの姿を目にできたのではないかと存じます。

いつも遠足の時期によりみかえるお弁当の思い出があります。

小学校のときに県庁所在地の盛岡に、遠足に行きました。お昼のお弁当は公園で食べることになっていたのですが、あいにくの雨模様で、急遽どこかの大ホールを借りてくれました。映画館の座席のような——それだけでも驚きでした——その椅子に坐って、お弁当を広げることになりました。

母が作ってくれたお弁当の包み

を開いて、私は友だちに気づかれないうちに、すぐにそっと包みなおしまししまいました。そして、さも食べ終わったような顔をしてホール階段の通路を上り下りしたりしてお弁当の時間が終わるのを待ちました。私は、お弁当を開いたとたんお箸がないことに気づいたのでした。先生にお箸を忘れましたというのが恥ずかしくて、やせ我慢をしたのです。

帰りのバスの中、空腹感と母がせっかく作ってくれたお弁当を食べずに持ち帰ることの罪悪感とで、車酔いをして空腹のくせに戻してしまいました。

家に帰ってから、自分でお弁当を食べなかつたことを話したのか、手付かずのお弁当を見て母が気づいたのかは覚えていませんが、母は何も責めませんでした。普通だったら、「なぜお箸を忘れ

ましたって、先生に言わなかったの！」ぐらい言うでしょう。

あるいは、子どもを責めなくとも、「うちの子どもがお箸を忘れたのに気づいてくれなかった。」と先生を責めたりする親も中にはいるでしょうに、母はだれも責めませんでした。お箸を入れ忘れただ自分を責めていたかどうかはわかりませんが……。

母が子どもを責めなかつたので、私は泣き出さずにすみませんでした。先生を責めなかつたので、後で大恥をかくこともありませんでした。

お腹が空いただろうにと、なにかを食べさせてもらったはずですが、それがなにかは涙でにじんで見えたのか、いまも思い出せます。

(6月の園だよりから)



七福神降臨



◆釣魚の図◆



◆遊戯の図◆



◆腕角力の図◆



◆酒宴の図◆



◆開浴の図◆



◆目隠鬼の図◆

奉寄進

為春室孤芳大姉菩提

施主 幕張 小野 純様

書院の襖に、七福神の絵が表装されました。

作者は、明治から昭和にかけて、山形県鶴岡市で活躍した土屋鷗涯（昭和十三年没）。幕末に藩士土屋伊教の長男として生まれた土屋鷗涯は、大正二年まで鶴岡の裁判所に勤務の後、酒田の本間家の本立銀行に乞われ勤務していた。独学で習得した鳥羽絵風の絵とユーモラスな、時には風刺を交えた文章を巧みに配置した独特の絵を描き、地方の文人達に大方の好評を博していたという。

書院の襖絵は、六曲の屏風から表装したもので、どれも七福神をモチーフに、腕角力や鬼ごっこをしている「遊び」をテーマにしたユニークな作品です。甲戌と書かれてあるので、昭和九年（一九三四）、鷗涯晩年の作品であることがわかります。

遺稿

「無とはなにか」

船橋市 高山 博司

毎日ベッドから窓越しに眺める空は、折々に変化して止どまることがない。ぼんやりと見続けているとさまざまな想念が湧き上る。

燦々とふりそそぐ太陽、流れる雲、降り積もる雪、恵みの雨、視野の狭くなった星空、時に見上げる月の表情：その時々にとだ何となく気のむくままにとめどなく思いを綴っている。

百五十億光年前（この数字自体が理解不能だが）に生まれたとされる宇宙について、何一つ科学的知識を



持ち合わせていないことを白状せざるをえないが、果たして宇宙は有限なのだろうか。有限だとすればその外にさらに広がる世界があるのだろうか。無限だとすれば、それはわれわれの小さな脳細胞では解明できないのではないだろうか。数字の1をどれだけ小さく切り刻んでも0にはならない。1と0とは断絶しているのだ。1（有限）は理解出来ても0（無）は理解できないということである。

無の世界はどこにあるのだろうか。心の中にあると最近は思えてきた。生きがいを求めて生活する姿こそが無の世界への挑戦だ。今世間を騒がせている《人の心は金で買える》と豪語した拝金主義の若者がいるが、私は『無償の愛』こそが無の心ではないかと思うのである。他人のお役に立つ、他人

に喜んでもらうことが出来れば幸せだと思える心が無そのものである。

地球上の生けるものすべてが黄泉の世界に流れていく途中一時がこの世だ。断絶を心がつないでくられる。こう考えるのも老いが深まった証だろうか。私がそうした死生観を持つに至った原点がある。

戦後六十年余が過ぎたが、私は終戦の年の記憶が未だ鮮明に残っている。それは私の価値観のルーツになっているものだ。

昭和二十年七月九日真夜中、私が住んでいた岐阜の街が大空襲に見舞われた。何機もの編隊を組んだB29爆撃機が飛来して市街地に焼夷弾の雨を降らしたのだ。空襲警報がなって真っ暗闇の中、家族全員が庭の防空壕に身を潜めた



© 1994 Smithsonian Institution

が爆撃機の轟音と共にうなるような音で間断なく焼夷弾が落とされ、見る見る赤い炎が視界を覆った。最初は市街地中心部で、私は壕から出て子供心にその様子を自慢げに皆に伝えていたが、見る見る家の間近に閃光がせまってきた。

家から北四、五百米にある工場（後の日本専売公社）に火の手が上がった。危険を知らせる人の動きが慌ただしくなった。家族は回りの人達と防空壕をでて建物のない東の方向に向かって逃げた。私は弟の手をひいて先頭を走った。二キロメートルも走っただらうか。一面の畑だ。

誰かが叫んだ。「防空壕だ、ここに身を隠そう」。真つ暗闇の時に遠くで閃光が走る。飛び込んだ穴にうづくまると強烈な油の匂いと共に油がべとべとと体に纏りついてきた。後々判ったことだが暗闇で防空壕と思った穴は、実は落とされた焼夷弾でえぐられたお椀状の穴だったのだ。この先東二十キロメートル位の所には、標的となった軍需工場と飛行場があった。真上を西から東へ飛ぶB29がたまたま落とした焼夷弾。

その時私は落とされた焼夷弾跡とは知らなかった。弟の上にかぶさるようにならずに私ほ、理屈なしに「ああ、死んだんだ。死ぬとはこういうことか」と思った。暫くはみな一言も発せず、死んだ風を呈していた。そのあとどう行動したのかまったく覚えていない。また、この日のことをだれ

も話題にすることばなかった。語られたのは終戦後随分たつてからである。私の心に封印されたままのあとから理由付けが出来ないこの体験は、ずっと私の死生感にまわりついて来ている。

死ぬことがそれほど怖いこととは思わなかった少年が、毎日「鬼畜米英」をたたき込まれた頭では、八月の玉音放送は聴く直前まで勝利宣言とばかり思っていたのだから。終戦をはさむ数か月の激変は私の心を大きく揺さぶった。



この文章は、船橋にお住まいでいらした高山博司さんの遺稿で、ご遺族から寄せられたものです。謹んで、故高山博司さん、博山報徳居士のご冥福をお祈り申し上げます。

平成十九年上期お寺と和尚の記録抄

1月10日	東京教区役員会	
17日	社会保険センター、「写経」	講座
21日	花園会新年会	
27日	幼稚園バザー「くすのきまつり」	
31日	社会保険センター、「写経」	講座
2月4日	写経会	
7日	社会保険センター、「写経」	講座
17日～19日	第十二回四国あるき遍路の旅	
21日	社会保険センター、「写経」	講座
3月4日	写経会	
7日	社会保険センター、「写経」	講座
11日	彼岸法要	
17日	幼稚園卒園式	
20日	根岸円光寺、春彼岸法話	
23日	春季定期巡教法話会	
24日	取手長禅寺、春彼岸法要	
31日	圓福寺冬の寺子屋 於 苗場	
4月2日	写経会	
8日	幼稚園入園式	
11日	社会保険センター、「写経」	講座
18日	写経会	
5月6日	木曾興禅寺、先住職一周忌齋会	
7日～8日		

14日～15日	小田原東学寺、開山六百年遠諱	
16日	第二十五回花園会ゴルフ大会	
19日	土曜会「春・夏の句会」	
6月3日	写経会	
6日	社会保険センター、「写経」	講座
15日～16日	土曜会「八海山ハイキング」	
20日	社会保険センター、「写経」	講座
7月1日	写経会	
4日	社会保険センター、「写経」	講座
7日	初盆・新入檀信徒施餓鬼	
8日	山門施餓鬼	
10日	根岸円光寺、施餓鬼法話	
18日	湯島麟祥院、施餓鬼法話	
21日～22日	社会保険センター、「写経」	講座
21日～22日	圓福寺寺子屋「禅童会」	

▽毎週木曜日午後六時～ 木曜坐禅会
坐禅三十分二回、終わって茶話。無料。初心者歓迎。

▽毎月第三土曜日午後六時～ 土曜会
お寺とあなたを結ぶ自由空間。会費二千元。

▽毎月最終火曜日午後四時～ ご詠歌練習

▽毎月第一日曜日午後一時半～三時半 写経会
「般若心経」の写経。見やすい大ききの字体です。
正座できない人のために、イスとテーブルも用意。
一期五回(事前申込制)。会費三千元。

◆第25回花園会ゴルフ大会◆

5月16日 於：市原ゴルフクラブ柿の木台コース

順位	氏名	グロス	ハネ	初	
優勝	正岡 宗之	81	18	63	
準優勝	常世田 政信	84	20	64	
3	杉本 朝春	88	23	65	
4	雨海 宏明	91	23	68	
5	矢野 弘明	85	16	69	
6	柴田 祥子	94	25	69	女性の部優勝

ベストグロス		77	柴田 勝美
ドラコン	杉本 朝春	ニアピン	柴田 勝美
	小山 稔		永田 猛
	加藤 正義		小山 稔
	杉本 朝春		杉本 朝春

次回予定は、11月14日（水）です。

第二十五回の花園会ゴルフが、六組二十四名の参加者で開催されました。成績は左記の通りでした。
恒例のチャリティは、三万二千六百円集まり、いつも通り本花園会の「おかげさま献金」に送らせていただきました。

第13回

四国あるき遍路の旅



今回は無事八十八番までお参りでき、今回はお礼参りの遍路です。最後は、私たちの本山妙心寺にお参りをして満願いたします。

なお、四国あるき遍路の二巡目を来春からはじめます。

募集人数 二十名

旅程（あくまで予定です。）

十一月二十二日（木）

十一月二十五日（日）の三泊四日

飛行機で徳島へ。八番札所から一番札所まで、逆打ちお礼参り。徳島泊。二日目、高野山並びに高野山奥の院へお礼参りをして宿坊泊。三日目は京都大本山妙心寺に満願報告の参拝をして京都泊。最終日、京都観光後、帰路。

参加費 七、八万円ぐらいを予定しています。

こどもたちのお盆



地蔵盆のご案内

8月25日 (土)

午後5時

供養受付 (本堂にて)

5時半

水子・ペット・人形供養

6時

みたまおくり
御霊送り

8時

模擬店閉店・地蔵盆終了



八月二十五日



焼きそば、焼き鳥、玉こんにゃく、昔なつかしの駄菓子、
ポン菓子の実演販売、冷たい生ビール、ジュース、ここ
ろしずかに野点の^{のぼて}一服



ご案内

◎ 供養のお申し込み
添付の申込書を郵送して下さい。
か、お電話にてお申込下さい。

* 供養料

水子一霊位	三	千	円
ペット一霊位	千	円	
人形一体	千	円	

* 供養料は当日の受け付けです。

山岡鉄舟母堂のお地蔵さんにちなんで、毎年開催されている「地蔵盆」も今年で第十六回。今年は八月二十五日です。
参道の両側に、「禅童会」に参加した子どもたちが作った灯籠が飾られ、境内のわらべ地蔵たちにお灯明があげて、本堂では、水子供養、ペット・人形の供養。そのお灯明を頂いてのみたま送り、幼稚園児の盆踊りとなります。

